

雲南市立病院のポリファーマシーの 現状について—横断研究

おお たちゅう いち¹⁾²⁾ たか き けん いち³⁾ つち え たかし⁴⁾
太 田 龍 一¹⁾²⁾ 高 木 賢 一³⁾ 土 江 隆⁴⁾
はっ とり しゅう ぞう²⁾ かね こ まこと⁵⁾
服 部 修 三²⁾ 金 子 惇⁵⁾

キーワード：ポリファーマシー，島根県，雲南市，在住地域，診療科

要 旨

高齢化に伴いポリファーマシーの問題が取り上げられている。ポリファーマシーが患者の予後に関係する可能性が指摘されているが、雲南市立病院でのポリファーマシーの現状は明らかにされていない。

目的：雲南市立病院入院患者のポリファーマシーの現状を調査する。

方法：平成28年10月の雲南市立病院の全入院患者のデータをもとに入院時内服数と年齢、性別、入院時診療科、在住地域の関係を横断的に調べた。

結果：当研究参加は総数193人で男性78人、女性115人、平均年齢は75.5歳であった。平均入院時内服数は5.15剤、43%の入院患者が6剤以上の内服薬を処方されていた。70歳代以上の入院時内服数が最大で、入院診療科、在住地域による平均入院時内服数の差は見られなかった。

結論：70歳以上の高齢者でポリファーマシーが問題となっており、すべての診療科がこの問題を意識して処方内容を検討する必要がある。

はじめに

ポリファーマシーとは同時に多種類の薬剤を使用している状態のことを指している¹⁾。多剤併用

と訳され、その定義は多様で本邦では6剤以上とすることが多い²⁾。高齢化が進むことによって多疾患を抱える患者が増えていることが大きな要因となっている³⁾。また医療の分断化によって一人の患者が多様な診療科にかかり、その処方全体を管理できていないことも問題となっている³⁾。

ポリファーマシーによって生じる大きな問題として薬剤有害事象の増加がある⁴⁾。薬剤有害事象には、薬物有害反応、処方エラー、治療失敗、薬

Ryuichi OHTA et al.

1) 雲南市立病院地域ケア科

2) 同 内科 3) 同 薬剤科 4) 同 情報管理課

5) 東京慈恵会医科大学臨床疫学研究部「地域医療・プライマリケア医学」大学院

連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院地域ケア科